

交通

評論



5月6日の朝日歌壇に載った馬場あき子選の歌を見て歌人の鋭い感覚に感動した。

「除染などありえませんが、除染です。セシウム静かに人間を論ず(長野県・小林正人)」。作者がどういう方か知らないが、今問題になっていることを的確に言い当てている。

また、水銀、クロム、カドミウムなど重金属や農薬など化学物質は濃縮分離や化学分解による無毒化が不可能ではない。

工場廃液の有機水銀は魚に濃縮されて知らずに食べた人たちに水俣病の惨禍を招いたが、人間が近づいて処理できないほどの猛毒物質ではないので、きちんと経費をかけて処理すれば除染は不可能ではない。

放射性核種による汚染がこれらの環境汚染と決定的に異なるのは、問題になる核種の物質量が少ないことと、そのエネルギーの大きいことである。殺菌したり化学的に分解したりできない

ところが、放射性核種による汚染がこれらの環境汚染と決定的に異なるのは、問題になる核種の物質量が少ないことと、そのエネルギーの大きいことである。殺菌したり化学的に分解したりできない

いところは重金属と似ているが、圧倒的な量の違いがある。

以前この欄で書いたが、今回の福島原発によつて放出された放射性核種の全量

はせいぜい10¹⁵Bqである。つまり放射性物質は重金属

などと比較できないほど微小な量である。それが、重金属汚染とは比較にならない広範囲にばらまかれ、地面に落ちると、土壌の粘土鉱物にはセシウムが強く吸着するので分離濃縮は難しい。濃縮できても、今度は線量が高く

取り扱いに注意が必要になる。この違いは核エネルギーと化学結合エネルギーの桁違いの差を反映している。石油1¹⁰Bqから得られるエネルギーをウラン235の核分裂を利用すれば0.5

移染

土器屋 由紀子

た膨大な量のフレコンバッグ入りの土壌の山を見るにつけ、いかに大変な作業が行われているかを知ると、放射能汚染の恐ろしさが身に染みて、無力感に襲われる。

高線量の表土をはぎ取ったものがそのまま積み上げられて広い面積を占めている。積み上げられたものの中から放射性物質を濃縮することは事実上不可能と思われる。

確かに私たちができるのは「移染」であって、「移したところ」で半減期に従って減衰するのを待つしかない。しかし、だからと言って故郷を追われた15万人の被災者はまだ帰宅の目途さえ立っていないことを考えると、「移染」の効率を上げ

て少しでも住める場所をつくる努力をするよりのほかに方法は無いだろう。

最近原発周辺の汚染水処理タンクからの漏れが報告されたが、こちらは「移染」さえきちんと行われていないのではないかと心配がある。炉心から直接あふれ出た汚染水には放射性セシウムのほかに毒性の強いストロンチウム90も含まれているので安易な地下水の海洋放出は許されないと

せめて巷(ちまた)でささやかれているような「隠染」が行われないように見守るしかないのだろうか。パンドラの箱の中に最後に残されたという希望がまだ健在であることを祈りつつ。

(江戸川大学名誉教授)